

## Q&Aコーナー

最近、園芸作物や畑作物を中心に、有機物不足や連作障害による土壌病害の多発、低収が問題化しています。これらの問題を解決するために、手軽で安価な緑肥作物の栽培が普及してきました。しかし緑肥作物は多くの種類があり効果も様々です。ここでは緑肥作物を使いたいけれど、どのような管理で栽培するかわからないなどの質問、疑問にお答えいたします。

### Qいつ緑肥を作ればよい?

**A** 緑肥を作るためにはその期間畑が空いてなければいけません。冬に畑が空く作型の作物を作られている場合は冬に生育させる緑肥を、夏に畑が空く作型の作物を作られている場合は夏に生育させる緑肥をおすすめいたします。おおむね緑肥の生育に2か月、すき込み後の腐熟に1か月程度の期間が必要になります。

### Qいつすき込めばよい?

**A** 出穂始めもしくは開花始めです。期間としてはおおそ播種後2か月程度です。これを過ぎると、植物が硬くなりすき込みづらくなり、分解しにくくなります。ポイントは早めのすき込みです。ロータリーを使ったすき込みが一般的ですが、プラウを利用した反転すき込み作業は能率が高くお勧めです。草丈が高い場合は、フ

レールモア等で細断してすき込むとロータリーに絡まりにくく、分解も早まります。また、すき込み後1か月程度は腐熟期間を取り、すき込み直後の次作の播種・定植はお避け下さい。その間2回ほどロータリーがけを行うことで緑肥の分解が促され、きれいな播種床を作ることができます。

### Qどうやって播種する?

**A** 手播き、散粒機、ブロードキャスター等を用いて播種します。ごんべえ等の手押し式の播種機を用いてすじ播きすることもできます。均一に播種することが重要です。その後、軽く土をかぶせ覆土を行ってください。覆土は手作業でできる面積であればレーキなどで土壌表面を攪拌、大面積の場合は浅くロータリー、ドライブハローで行ってください。一般的に覆土の厚さは種子の3~5倍と言われており、種子の大きさによって覆土の厚さを変える必要があります。ソルガムやエンバクなどの比較的大きな種子では3~5cm程度、ギニアグラスなどの小粒の種子では0~2cm程度の深さが目安になります。さらに、発芽や定着を安定させるためにローラーなどで鎮圧を行います。特に種子の小さな草種では必要な作業です。



▲ブロードキャスターによる播種



▲ロータリーによる浅い覆土がけ



▲ローラーによる鎮圧



▲ロータリーによるすき込み



▲プラウによるすき込み



▲すき込み前の細断作業

### Q センチュウってなに？

**A** センチュウは細いひものような生き物です。菌やカビを食べるセンチュウ、動物に寄生するセンチュウ、植物に寄生するセンチュウなど様々な種類が土の中には存在し、そのバランスが整った土壌では作物が良好に生育できます。我々にとって問題になるのはそのバランスが崩れたときに、特定のセンチュウが増殖し栽培作物に害を与えることです。そのセンチュウは作物に寄生し体長は長くても数ミリで体色は透明、肉眼では見ることはできません。これらが寄生した際に作物から栄養分を吸い取り、結果として寄生された作物の生育は不良となり、収量減となります。被害が甚大な場合は枯死に至ります。また、センチュウが作物に寄生する際に根を傷つけるためそこから他の病原菌に感染しやすくなってしまいます。

### Q センチュウが畑にいるようだけど、どの緑肥を使えばよい？

**A** 作物を加害するセンチュウは同一の作物を連作すると土壌中で大幅に増加し、被害が出やすくなります。センチュウにもさまざまな種類がいて栽培する作物ごとに問題となるセンチュウは異なります。緑肥作物の中にはセンチュウに対する効果を兼ね備えているものがありますが、問題となっているセンチュウの種類に応じた緑肥作物を使い分ける必要があります。

### Q 緑肥作物はどうやってセンチュウを減らすの？

**A** 緑肥作物の根にセンチュウが侵入しますが、その後の生育は抑制され、産卵には至らず、死んでしまいます。結果として土壌中のセンチュウ密度は減少していきます。また、マリーゴールドは根から殺センチュウ物質を出すことで知られています。

### Q 覆土・鎮圧をしっかりしたのだが、緑肥作物の生育がなぜ悪い？

**A** 通常、野菜などを作付している圃場やハウスでは前作の肥料が残っており、緑肥の為に施肥をする必要はないのですが、地力の小さい圃場、使用を開始して間もない圃場では肥料が不足することがあり、生育が悪くなることがあります。そのような圃場では施肥を行うことをおすすめします。施肥を行う場合は最低でもマメ科緑肥の場合は窒素成分で0~2kg/10a、イネ科およびその他の緑肥の場合は窒素成分で5kg/10aを施用してください。

### Q きれいな花が咲く緑肥を教えてください

**A** 春に花を楽しむ場合には、黄色い花のシロガラシ類「キカラシ」、紫色の花のハゼリソウ「アンジェリア」、深紅の花のクリムソクローバ「くれない」があります。夏に花を楽しむ場合にはヒマワリがおすすめです。花を楽しむ緑肥の中にも雑草抑制、センチュウ対策等の効果を期待できる作物もあります。



▲黄色い花の「キカラシ」

### Q 緑肥は草種が同じだったら効果も同じなの？

**A** 違います。同じ草種であっても出穂、開花までの期間（早晩生）や草姿が異なったり、センチュウに対する効果が全く異なります。使用目的に応じて各社より様々な品種が開発されていますので、品種名を指定してご注文されることをおすすめします。

# Q&A